



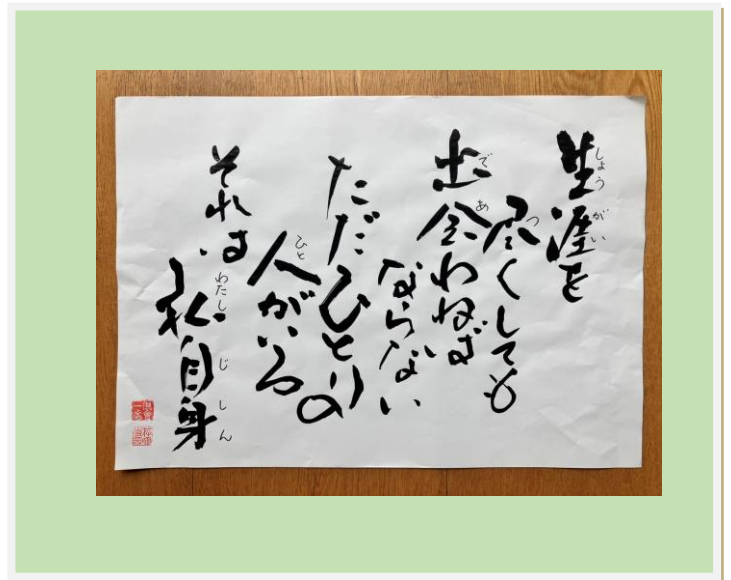
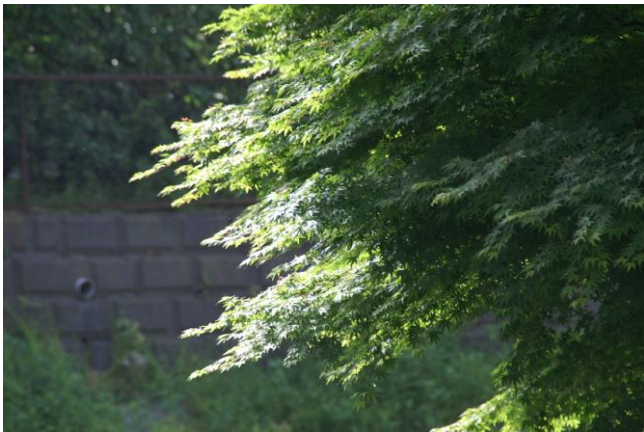
真宗大谷派 存明寺通信

No.225

2025年(仏歴2556年)5月3日

2026年(令和8年)11月2日(月)・3日(火)に

きょうさんほうよう しゅうそしんらんしょうにんごたんじょう りつきょうかいしゅう ぞんみょうじ
慶讃法要(宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年)が存明寺で行われます。



**生涯を尽くしても 出会わねばならない
ただひとりの人がいる それは 私自身**

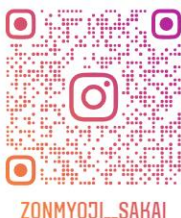


自分のことは自分が一番よく知っている、と人は言います。しかし、それは本当でしょうか。自分が「何のために生まれて、何をして生きるのか」、それがよくわからないのが私ではないでしょうか。

そんな人間のために、自分を照らし続ける教えがあります。仏さまは、私自身を知らせる存在。お寺は、私自身に出会うところ。

しんしゅうおおたには ぞんみょうじ
真宗大谷派 存明寺

↓ インスタ ↓



ZONMYOJI_SAKAI

↓ 存明寺 HP ↓



存明寺の HP <https://zonmyoji.jp>

存明寺 Instagram と HP 定期的に更新中！

お寺の活動や諸行事、掲示板の言葉や花手水、法話動画など、定期的に更新中です。ぜひご覧ください。

真宗大谷派大谷婦人会法話

親鸞 今も生きてはたらく人

酒井 義一（存明寺住職）

今回は、「親鸞^{しんらん} 今も生きてはたらく人」というテーマを選びました。もちろん、親鸞聖人がまだご存命で、どこかの企業で労働をしているといった意味の「はたらく」ではありません。

親鸞聖人は、はるか昔にお亡くなりになられています。その人は言葉となつて、あるいは人間を目覚めさせる教えとなつて、あるいは声となつて、今も私たちにはたらく続けています。

この「はたらく続ける」とは、まるで深い眠りに落ち込みそうな私たちを揺り動かし、目覚めさせ、立ち上がらせて、「さあ、歩もう」と、今なおはたらく続けている親鸞聖人ということ。そういう意味を込めて、このテーマを出しました。

今日は、親鸞聖人の教えに生きてきた多くの先輩たちの言葉を通して、その言葉を一緒に味わいな

がら、私が親鸞聖人に何を学んできたのかを確かめてまいります。

まず一番目の言葉は、
仏教はわかる教えではありません
ん なるほどそのとおりとうな
ずく教えです

「わかる」とは、頭で理解するという意味の「わかる」です。だから読解力や暗記力が優れているという世界のことです。

ところが親鸞聖人の世界、浄土真宗の世界は、「わかる」教えではありません。先輩である今泉温資さんが法話で教えてくださり、とても印象に残っています。

わかる、つまり頭で理解する、記憶するということは、もちろん大事なこともありません。しかし、それを一番の大事とは思いません。「本当に、ああそのとおりだ」と全体でうなずいていく世界が親鸞聖人の世界であり、浄土真宗

の世界ではないかと思えます。

二番目の言葉は、

弟子に準備ができたとき

師は自然に現れる

これはチベット仏教の言葉です。「教えてもらおう」という弟子の心構えができたときに、その道を導いてくれる師匠^{しやう}が自ずと現れてくるということです。弟子の準備ができるときとは、どういうときでしょうか。

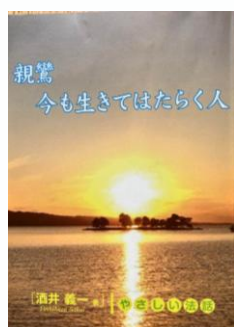
「よしつ、これから仏教を学ぶぞ」と意欲に燃えているときというのが一般的な捉え方だと思えます。しかし、決してそればかりではないでしょう。思いもかけない出来事があつて、これからどうやって生きていけばよいのかと思うときも、弟子の準備ができるときなのだと思います。

今朝の晨朝^{じんちやう}法話^{ほうわ}も、地震と病気という、まさかの出来事を通してお話でした。生きていけば思いもかけない出来事が起こつて、なんでこんな目に遭わなければならぬのかという思いに沈むこともあります。人間はそういう思いがけない出来事を通して、どうしていいのだろうか、何をすべきなのだろうかという問いが沸き起こる、こういうときのことを「弟子の準備ができる」と、こう表現しているのが仏教の世界ではないかと思えます。順調に物事が進んでいるときには、たとえ師匠のような方々がたくさんおられたとしても、それに気付かず素通りしてしまうのではないのでしょうか。

ところが、心に波風が立つとき、心にぽっかりと穴があくとき、どう生きていったらいいのかわからないとき、今まで見過ごしていたが、実は目の前に、そのことを指し示す人がいる。これが「弟子に準備ができたとき師は自然に現れる」ということではないかと思えます。

（小冊子につづく）

2024年にお話した法話は小冊子になりました。この続きは冊子にて。ご希望の方に無償でお分けします。←←←←←



住職日記 慶讃法要について

▼東京教区の慶讃法要きやうさんほうよう が、4月14日、18日の5日間、練馬の真宗会館で行われました。親鸞様しんらんご誕生850年・立教開宗800年の法要です。今までにない試みをとのことで、初日は音楽法要、2日目は帰敬式ききようしき、3・4日目は新しい試み、5日目は伝統的な法要が行われました。どの日も大勢のご参詣があり、にぎやかで活気に満ち、浄土真宗の雰囲気ふんいきが漂う5日間でした。

▼存明寺たい焼きタコ焼き隊が3・4日目に慶讃市場に存明寺有志20名により出店されました。この日のために2回の練習を重ね、おそろいのTシャツとエプロンで大活躍。「チームワークがいいですね」「たい焼きタコ焼き共にクオリティが高いです」など評判でした。関わったスタッフからも「役割があつてやりがいを感じた」「とても楽しかった」との声。2日間の売り上げは10万円

にもなりました。全額を能登からお越しいただいたゲストの篠原暢さんと 溝恵周さんにお送りいたしました。関わってくださった皆さんに、甚深の謝意を表します。

▼草庵ブースを存明寺住職が担当しました。親鸞様が関東時代に暮らした草で出来た庵を再現し、そこをメインステージとして、7つの催しが繰り広げられました。公開座談・私の出会った大切なひとことコーナー・能登の被災者からのお話・教行信証きやうぎんしんしやうのパネル解説・親鸞様の寸劇・座談会、そして坊主バザー。大変でしたが、とても楽しい催しでした。

▼一家総出で この東京教区の慶讃法要に関わらせていただきました。住職と娘のあゆみは草庵に、坊主は坊主会長として接待や挨拶に、長男大樹は、同朋ネットの炊き出しに、嫁の瑠美と孫の結沙、末息子の翔太も焼き手や売り子に。さあ、次はいよいよ存明寺の慶讃法要。今回の経験が次の動きにつながりますように。

2020年11月の存明寺での慶讃法要に、乞う、ご期待!!



↑メインステージでの公開座談会



↑たい焼きチームの皆さん



↑存明寺スタッフの皆さん



↑存明寺チームの集合写真



↑存明寺スタッフの皆さん



↑草庵で行われた親鸞様の寸劇

お寺のひろば 2025年(令和7年)

2025(令和7)年 お寺のひろば

5月17日(土) 14時 樹心の会 じゅしん

お話：小林和子氏・関口昌雄氏・酒井住職

6月14日(土) 14時 樹心の会

お話：佐藤尚宏氏・高橋昭彦氏・酒井住職

6月28日(土) 14時 グリーフケアのつどい

大切な方を亡くした人のつどい

7月5日(土) 11時 新盆法要 にいぼん

7月13日(日) 11時と13時 おぼん法要

お話：長島巖氏・松本維邦氏・酒井住職

9月13日(土) 14時 樹心の会

お話：岡田真氏・藤井良子氏・酒井住職

9月19日(金) 13時 おそうじの日

庭木の剪定と清掃のつどい

9月23日(火) 11時と13時 秋のお彼岸法要

お話：吉山綾子氏・山田政孝氏・酒井住職

9月27日(土) 14時 グリーフケアのつどい

10月11日(土) 14時 樹心の会

お話：三好浩一氏・酒井あゆみ氏・酒井住職

10月17日(金) 午後 日帰り旅行会 特別企画

存明寺の歴史を訪ねて(港区への旅)

10月24日(金) 10時 おみがきのつどい

11月2日(日) 14時 報恩講のゆうべ ほうおんこう

3日(月) 12時 報恩講

講師：保々真量さん(九州教区光行寺)

11月15日(土) 14時 樹心の会

お話：清光やす子氏・酒井浩美氏・酒井住職

12月13日(土) 14時 樹心の会

お話：吉山浩文氏・酒井大樹氏・酒井住職

12月20日(土) 14時 グリーフケアのつどい

お気軽にご参詣ください



7月13日(日) 11時と13時 おぼん法要

内容：無量寿法要・おぼん法要・お話

お話：長島巖氏・松本維邦氏・酒井住職

9月23日(火) 11時と13時 秋のお彼岸法要 ひがん

内容：無量寿法要・お彼岸法要・お話

お話：吉山綾子氏・山田政孝氏・酒井住職

11月2日(日) 14時 報恩講のゆうべ ほうおんこう

3日(月) 12時 報恩講法要

内容：報恩講法要・法話・お斎(3日)

講師：保々真量さん(九州教区光行寺)

感話：井ヶ瀬恵子氏・城ノ下恭博氏



【あとかき】

▼桜の季節があつという間に過ぎ去り、新緑がまぶしい季節を迎えました。あらためて四季と共にあることを感じていきます。

▼65歳という前期高齢者になって半年、老いを感じる事が多くなりました。膝の痛み、物忘れ、気力の低下…。すべてが順調？ということでしょうか。

▼初孫の結沙は7か月となり、つまり立ちやハイハイをするようになりました。生きようとするいのちそのものの孫。たのしい限りです。

▼「お寺は、私自身に出会うところ」(表紙より) どうぞお寺にお出かけください。共に教える光に照らされましょう。

住職 薙



東京都世田谷区北鳥山4-15-1

真宗大谷派 存明寺(そんみょうじ)

住職 酒井義一(釋諦信)

TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp